

2017.02

# あるほなつき

いさんなスキルを身につけておいて、ただ写真を撮り歩く。ちよつとしたひらめきで、さかのぼって探すと、作品が出来ている。

— 前田有歩！  
(写真作家)

あー、おもいたったが吉日だから、それで作品が出来上がるし、いさんなスキルも身に付けてきた。動機がすべて。

— さとらなつきー  
(絵本作家)

## ● 連載

みんなで一冊のえほんを作ろう①

## ● 特集

あるほなつき、これまでの活動

## ● コラム

あるほのコラム・なつぎのコラム  
えほんのこと

## ● 活動報告

## ● インフォォーメーション

創刊号  
FREE

# みんなで一冊のえほんを作ろう①

作り方を教えさえすれば、きつとみんなそれぞれに好きなストーリーを作り、それぞれに絵を描くだろう。しかし、「みんなで作る」ことにより、自分ひとりでは思いもよらないストーリーや絵本のアイデアが生まれ、それを共有することで新しい世界に触れ、感じ、考えることができる。そして、最後には自分のものになるのだ。



今回の講座は予想以上の人数が集った。ストーリーは、ランダムな3つのグループにわかれ順番を決め、話し合いなしで一文ずつ書いていく。

て次の人に渡していく、というリレー形式で作っていった。

このとき心がけていただいたのは、次の人を困らせること。そうすることで、きれいな起承転結におさまらず、奇想天外な展開になっていく。

主人公はくじ引きで決めた。くじには全て適当な名前が書いてある。あつちゃん。それは人間なのかそうじゃないのか、男の子なのか女の子なのか、子どもなのか大人なのか。参加者が各々勝手に想像しながらストーリーが作られていく。ストーリー発表のとき、「私は男の子だと思ってた！」

「私はやんちゃな女の子かなと思った」など、グループのみんなが主人公を違った設定で考えていたことがわかり、それもまたおもしろかった。

みんなで作るとき、一番問題となるのが絵だ。苦手な人も中にはいる。得意な人にだけお願いして描いてもらうわけにもいかない。みんなでワイワイ「こうだ」といいのにな」と夢物語のようなことをおしゃべりしていたことが、今回は実現することとなった。動く人形。これを作

ったことで、全部のページを描く必要がなくなった。

あとは背景だ。この時ちょうど「あるほなつき」のWSでやっていた和紙のちぎり絵をヒントに、背景はみんなできち

て貼ったものを使うこととなった。このことは、絵が苦手な人の課題もクリアで

きたように思う。仕上げの文章の見直しや文字のレイアウトなどでは、それぞれの好みや考えがある中で、なかなか困難を極めたが、「みんなで作る」一冊なんだという意識を持って、完成したものを見ていただきたい。また、図書館などでもたくさんの方に読んでいただき、こんな絵本もあることを知っていたら幸いです。

## あるほなつき

### これまでの活動

2015年8月23日



感想をいただき、とても嬉しく思いました。今後も山形市を中心に制作をすすめてまいります。真室川町での新たな出会いは、僕のこれからの表現をささえてくれるに違いないと確信いたしました。

—前田有歩

2015年6月に出会い、勢いよく始まった「あるほなつき展」は、自身が真室川町で展示する意味を問うところから始まりました。「みぢかなところ」をテーマに山形市を中心と撮影している僕にとって、真室川町とは何かを日々考えていました。僕にとってのみぢかなところが、皆さんの記憶と結びついて、皆様のみぢかなところとなる。そんな作品制作を目指しました。初日に、真室川町に至る行程もまた、作品の一部との

—さとうなつき

山形に嫁に来て初めての油絵の展覧会を、このような素敵な場所と素敵な方と開催できたこと、そして皆さんの方に会場に足を運んで頂いたことに、心から感謝の気持ちでいっぱいです。一週間はあつという間でした。皆さん「初めまして！」とたくさんのお久しぶりです！」とたくさんの「いつもありがとうございます」で溢れた一週間でした。自分の作品につ

—前田有歩



2016年6月13日

いてお話しするなかで、言葉にして初めて「あ、そういうことだったのか」と自己確認することも多かったようにおもいます。

—さとうなつき

そもそも、2015年のいまごろ、渡した海の写真が逆さまに飾られたことがありました。緑をテーマにした二人展を経た、ある日、僕の写真を描いてみたいと言う。仕上がった絵は綺麗な風景画に見えたが、抽象画だと言う。しばらくしてまた別の素敵な絵をみせてくれた。不思議な感覚をともしな素敵な絵。それは、東京の路地裏の水たまりを逆さまにしたまま描いたという。僕の写真だけど、逆

さまにしてみた僕ではない写真。矛盾の同居について考えていた僕は、素直になれた気がしたので。僕にとつては、そんな二人展でした。

—さとうなつき

抽象画を描いてきました。あとは、絵本。そんなとき、ある皆さんの一枚の写真に魅せられました。これは、抽象画に通じる世界だ、と。描いてみたい気持ちと、描いたらその予想と反してがっかりするかもしれない不安との狭間で揺れ動きながら、やつぱり描いてみたい気持ちに素直になったことで、今回の二人展がスタートしたと思っ

2016年8月1日



す。写真を見ても描く、それは、抽象画を描いているときの苦しみとは反対に、ただ見て描く行為の中で無心になれる瞬間でもあり、でも、描いているうちに、写真を見たま描いていないことにも気づく。結局は抽象画を描いていると

視点にしている真室川の蔵ギャラリーentを飛び出して、二人展初の村山市は基点温泉にて開催させていただきました。今回は、僕らが出会ってから今に至るまでの過程を、自己紹介をまじえながら、テーマごとに展示致しました。二人展をはじめ開催し

てから、もうすぐ一年を迎えますが、振り返れば、実に多くのテーマについてやりとりをかわし、作品にしようとする試みを重ねてきたのだと実感する結果となりました。また、開催の直前には、おしま国際手づくり絵本コンクール2016にて、さとうなつきの手作り絵本が、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞し、嬉しい二人展となりました。

2016年9月11日



—さとうなつき

実際に人物を「見て」描いた作品を展示した蔵ギャラリーentでの『さとうなつき人物画展』を終え、今回の二人展では自画像に焦点を絞りました。見て、描いた自画像を経て、自由になった

感覚で今度は「感情」をテーマに新たな作品を制作しました。それは、抽象的な要素もあり、描いていて楽しかった。展示された自分の顔、顔、顔。描いているときはモチーフが「自分」でも、作品になってみると、自分とは別物になっていました。それは、私が被写体になっている有歩さんの作品も同じです。抽象も具象も風景も人物も。そんな境界線を越えるような作品を、これからも作っていきたくおもいました。

—前田有歩

たとえば、十秒間なつきの顔を映像で記録したとします。おおよそに、三百枚程度の静止画が記録されるわけですが、コマ送り一枚ずつ見ると、なつきさんらしいものもあれば、えっ？みたことない顔だな、というもので、実にさまざま表情があることに気がきます。僕の

脳は何を見てその人を記憶しているのでしょうか。時間をかけて、たくさんの話をし、その日の気分で、撮影してきました。そこに記録された写真は、なつきさんらしいと思えました。しかし、記録されなかつた瞬間の、なつきさんはそこにいたのだろうか。「物事をみる」という本質もふくめて、その人らしきをもつと探求してみたいと思いまし



さとうなつき絵本原画と抽象画展  
蔵ギャラリー enta  
2016/4/22 - 24



さとうなつき人物画展  
蔵ギャラリー enta  
2016/8/15 - 21



前田有歩作品展  
悠創の丘 悠創館  
2016/8/23 - 9/4

#### 【あるほなつき 2016 活動】

展示  
あるほなつき展 @蔵ギャラリー enta 6/3 - 12  
あるほなつき展 @基点温泉 7/5 - 31  
あるほなつき展 @山形まなび館 9/2-9/10  
ふるさと子供伝承祭、展示 @真室川町中央公民館 11/27  
出店  
笑顔絵描きます @基点温泉 7/20  
んだニャ〜まつり @榎葉プラザ 10/1,2  
表現教室 @まなびあテラス 11/3,4  
あづまり EXPO @榎葉プラザ 11/6  
映像制作  
和幸くん、遙ちゃん、結婚式映像 11/26  
全国わがまち CM 12/17

## あるほのコラム

日々、撮りたいものを撮り、撮りたくないものは撮らない…

シャッターを押した瞬間までは、この写真がどう伝わるかすら考えずに撮影してきました。それは、すでに頭が知っていることであり、意識したり言葉にすれば囚われる。そういう思いもあるからです。

撮影した写真を遡り、徐々にそれらの写真から、キーワードとなりうる「言葉」が浮かんできます。この段階でようやく、自分がやりたかったことに気付き始めるのです。

現場に立ち撮影した自分と、そこにはいなかった伝えたい方。それぞれが、それぞれの記憶によって思い起こされたことで共感や理解を共有することを目指しています。

写真という、一つの先入観の中で、ときに、それを騙し崩し、ときに、当たり前のように振る舞う。何が正しくて、何が正しくないかということから離れた、多様性の中で、矛盾をも許容した作品を、作っていききたいのです。



## なつきのコラム

「絵を描くのがこわいんです」日曜日の朝に、読み聞かせ仲間が訪ねてきた。

話を聞くと、最近勉強していることがあり、セミナーによく出かけているのだけれど、その中で絵を描かせられるのだそう。あなたのあたまの中のイメージを描いてみましょう。でも、絵にトラウマ的なものがあり、全く描くことができないらしい。

そこで私は、あるほなつきで行っているWS『表現教室』のことを話すことにした。白い紙と絵の具を渡して「さあ、自由に描いてください」と言われても、たいの大人はどう何を描いていいかわからず躊躇してしまふ。それは、何かを見てそっくり描くのが絵だと思っっているからかもしれない。私が参加者のみなさんに体験してもらいたいのは、絵とのやりとり。たくさんある絵の具の中から色を選ぶ、ひとつ何かを描く。そうしたら、白い紙が大きく変化する。それを見て次はどうしようと思える。絵の具を選ぶ、何かを描く、それを見て次はどうしようと思える。その繰り返し。それが絵

との対話であり、そのやりとりから生まれた作品は、その時の自分（のイメージ・感覚）ということになる。

大人はバランスをとりたくなくなるものだ。きれいにむらなく無難な感じ。それは、せっかくのひとの出会いを、「こんにちは、いいお天気ですね」というあたりさわりのない会話をして終わるのに似ている。深い信頼のできる仲になるには、ハプニングを乗り越えたり、時には喧嘩も必要なのだ。ゆえに私は、さらっと「はい、できました」と考えたり悩んだりせずに終わった絵には、「これを壊すところがスタートです」と声をかける。壊すことで不安定になった画面に、次どうはたらきかけるのか。そこから絵との本気のやりとりが始まる。



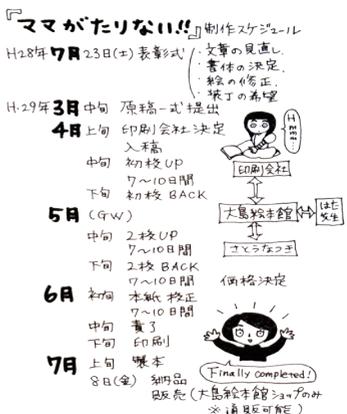
## えほんのこと

この夏に出版される予定の絵本の描き直しをしている。昨年のおおしま国際手作り絵本コンクールで受賞したこの作品は、原画をそのまま製本してしまったため、塗りのぼしの部分がない。これから印刷製本するにあたり、まわりを3mmほど立ち切られると告げられた。四方に余白のあるページはそのままでもよいが、そうでないページは描き直しが必要となった。また、コンクールの審査委員長である、はたこうしろう先生からのアドバイスを受け、ただの受賞作から出版される絵本へとステップアップするための描き直しというものもある。

必ず描き直さなければいけないと思えるページから描き直していった。すると、どうしても描き直せない（直したくない）ページがあることに気づいた。それは、5人の子どもたちが呆れた顔をして立っている見開きページ。文字はない。表情で見せるシーンだ。これは、これ以外のどんなものにも代えられない気がした。これを描いたときの心情と勢いだが、このページには込められている。

はた先生のアドバイスをヒントに描き直したページは、以前のものと比べ数段よくなっていると思う。これから絵本を描くときも、画面を構成する上で留意すべきことを念頭におきながら、一番伝えたいことが表現できたらいいな。

春には、文字のレイアウトなども終わっている予定。出来上がるまでの過程も楽しみながら、夏の出版を目指していきたい。



2016年7月23日 授賞式



受賞作品『はいはい』



はた先生との打ち合わせ



書き直しのページ(一部)

# ワークス



2015年の二人展を機に、こんなこと、あんなことをしたら、みんなも面白いんじゃないかという、あふれる思いから『あるほなつき』の活動は始まりました。2016年は、「表現教室・授業・講座」、「展示」、「出店」、「映像制作」、「パフォーマンス」このような活動が中心となりました。

—前田有歩

2015年の、二人展は、お互いのことを何も知らない同士が、一つの空間に展示をしました。あえて、つくりあげようとしたわけではないけれど、それぞれが苦しみ、そして楽しみ、それからあたりまえのように相手も意識して、展示をしたように思います。2016年の、二人展は、数多くの「やりとり」を通して、その結果や、その過程を展示することになったように思います。写真には興

味はないけれど、逆さにしたらオモシロイ。そんなところに端を発した、6月の蔵ギャラリーcage。さまざまなやりとりそのものを展示し、そこから産み出された作品も同時に展示した、7月の基点温泉。人を撮る、人を描くということに、悩み、苦しみ、それぞれの思いを積み重ねた、9月のまなび館。絵本作家としての、さとうなつき。写真作家としての前田有歩。それぞれの活動を軸に、人として人に伝えたいことを、来年も積み重ねていきたいなと思います。

—さとうなつき

あるほさんが2016年の「あるほなつき」のいろんな活動を振り返っていたので、わたしからは特に表現教室や講座やWS、学校での授業について振り返ってみたいとおもいます。

あるほさんの作品、カメラで撮ってるから写真だとおもっていたのが、カメラという筆を使って絵を描いていると感じたことが、大きなきっかけでした。写真だとか絵だとかの境界線を越えて、表現すること〴〵に重きを置いたら、うまく

描こう、うまく撮ろう、という縛りから少し解放されるのじゃないか。表現する楽しみを、多くの人と分かち合いたいとおもうようになったことから始まった表現教室でした。また、真室川をとりこえて、山形県内各所のイベントに出店したりWSを行ったことは、たくさんの方と出会いたい世界を広げるきっかけともなりました。

それぞれの創作活動と平行して、教室やWSも充実させて参りたいと思っています。



## 【お互いをプロデュース】

Facebookで知りあい、お互いの顔はプロフィール写真でしか知らなかった。その当時のあるほのプロ写真はモノクロでよく表情が見えないものだった。なつきは、てきとうな自撮り写真。本人の魅力をプロ写真で表現できたら、というのがきっかけで、お互いの写真を撮るようになった。今では写真のみならず、自分では気づかないお互いの良さを引きだし、形にしている。



## 【あるほなつき日々の記録】

MTGやWSでお昼をまたぐときには、外食よりお弁当にしている。主婦の私は“お昼は余り物”が当たり前。それに余り物といっても、すべて手作りで栄養面も考えられている。ランチは、忙しいなかでも大事な時間だ。(なつき)

“あるほなつき劇場”は、劇場と謳っているものの、演出するための演出になってはつまらないし、伝わらないと思うのだ。日々の記録であり、あるほなつきの背景なのだ。(有歩)

撮りたいときに、撮っています...



## 【なっちゃん、飛んで】

初めての本格的な写真撮影で、真っ赤な傘をさして飛んだ。その写真は私の明るさだったり悲しみだったりあらゆる要素が表現されているように感じた。それから機会があるごとに、いろんな風景を背に、飛んだ。それは、風景の一部であり、私のポートレートでもある。(なつき)

さまざまな撮影は、その日の記録であり、その瞬間の記録でもある。飛んでるシーンは、日常であり、“あるほなつき劇場”でもあるのだ。(有歩)



## 【ちっちゃいなっちゃん】

写真を撮られるのが嫌いな私は、後ろ姿から始めた。それが大丈夫になったら、今度は速くから。「ちっちゃな私」は、とてものびのびして、私らしかった。(なつき)

人を撮り始めようと考えていた。そんなときに、なっちゃんと出会ったのだ。彼女の活動は魅力的で、記録写真と称しつつ、その内面を描きたいと思った。写真を撮った。この写真は、だれのためのものなのか。なにより、あなたの背景を魅せたいのだ、伝えたいのだ。(有歩)



## 【映像制作】

きっかけは、驚くほど突然でした。「映像を撮れる人いますか？」という問いかけに、なっちゃんが、「できます！」と応えてはじまった。それでも、すぐに役割分担ができて、映像の面白さと可能性に、気がつくことが出来た。「あるほなつき」で伝えたいこと。それは、映像によってはじめて表現できることもあるだろう。そのために、日々、活動を記録することが大切だと知った。そのときは、何でもないことも、振り返って意味が出てくることも多い。



あるほんごの  
ファンクションマンガが  
はじめてまして。

# ファンクション



www.facebook.com/alfonatsuki/



twitter.com/alfo\_natsuki

さとうなつき  
絵本作家  
岩手大学大学院  
教育学研究科  
上越教育大学  
岩手県立黒沢尻北高  
山形県最上郡在住  
岩手県北上市出身  
1976年3月3日  
イタリアの画家フラン  
チェスコ・クレメンテに  
影響を受け、大学、大  
学院時代に抽象画を学ぶ、  
中学校美術講師を経て、  
結婚を期に真室川町へ。  
子育てをするなかで絵本  
の魅力にとりつかれ、自  
ら描くようになって十  
年。制作した手作り絵本  
は三十冊を超える。  
おおしま国際手づくり絵  
本コンクール2016  
最優秀賞・文部科学大臣  
賞 受賞

5人の子の母。  
前田有歩(またああるほ)  
写真作家  
慶應義塾大理工学部  
筑波大学附属高  
山形県山形市在住  
東京都足立区千住出身  
1974年6月3日  
版画家の父の影響を受  
け、大学美術部に入部。  
街角の風景や、人物を撮  
り始める。調理師・築地  
仲卸などを経て、結婚を  
期に山形市に移住。畑を  
耕したり稲作を通して自  
然と触れ合うなかで、住  
んでいるところから発信  
して、見ていただく方の  
記憶と結びついて共感を  
得る作品制作を試みてい  
る。  
2人の子の父。  
巻頭の記事  
手づくり絵本、受賞を受

けた7月10日の会話の中  
でうまれた言葉。さとう  
なつきを撮り続けている  
ので、受賞作を描いてい  
る姿も記録しておくこと  
ができた。  
—さとうなつき  
あるほの、あたしを撮つ  
た写真もね、絵本を描い  
てた、すごいよ  
なんか、予知されたこと  
に対して、アクションし  
てきているんだよ  
そのうち、ほんら、これの  
ためだったんだよ!  
て。なるのきつと  
—あるほ  
—そうそう!  
だから、僕は回り道をし  
てきたし!  
無駄になるもの一つもな  
い。買ったものでも。  
このあと、ふたりのスタ  
ンスの違いが明らかにな

りました。  
今月のレンビ  
南瓜とリンゴのケーキ  
材料  
カボチャ 1/2個  
小麦粉 200g  
卵 3個  
ベーキングパウダー 5g  
砂糖 大さじ5  
サラダ油 1/2cc  
シナモン 少々  
① 南瓜を煮つぶす。  
② 卵と砂糖を混ぜ、もったり  
するまで泡立て。  
③ ①に②を二回に分けて入れ  
よく混ぜる。  
④ ③にサラダ油とシナモンを  
入れ混ぜる。  
⑤ 小麦粉とベーキングパウダ  
ーを混ぜて④ふるい、④に入  
れ、木ベラでさっくりと混ぜる  
⑥ 容器にバターを塗り⑤を入  
れる。  
⑦ ⑥の上を薄切りにしたリン  
ゴを乗せる。  
⑧ 余熱した170度のオーブ  
ンで約60分焼く。



いたとき、何か景色が広  
がった気がした。(有歩)  
日常と非日常。表現する  
ことは日常だが、それが  
イコール現実であるとは  
限らない。表現、の部  
分をとりだし、活動やそ  
の軌跡を知っていただけ  
るものとしての冊子に、  
大きな可能性を感じてい  
る。(なつき)  
発行日  
2017年2月1日発行  
編集人  
前田有歩・さとうなつき  
発行人  
あるほなつき  
発行所  
あるほなつき  
〒990-1233 2  
山形県山形市  
電話 08011337769  
08011337769  
次号予告(三月上旬予定)  
●連載  
みんなで一冊の  
えほんをつくらう②  
●特集  
鑑賞の授業  
●小学校にての取組  
●あるほなつき、活動報  
告・それぞれの活動